# 文教福祉常任委員会意見を聞く会会議記録

日　時　　令和３年２月１８日（木曜日）　　午後　１時３０分　開議

場　所　　水戸市議会　第３委員会室　　午後　５時１８分　散会

---

付託事件

(1) 所管事務調査

---

１　本日の会議に付した事件

(1) ＩＣＴ教育の推進について

(2) 学力向上と教員の資質向上について

２　出席委員（７名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 鈴木宣子君 | 副委員長 | 綿引　健君 |
| 委員 | 土田記代美君 | 委員 | 木本信太郎君 |
| 委員 | 後藤通子君 | 委員 | 袴塚孝雄君 |
| 委員 | 田口米蔵君 | | |

３　欠席委員（なし）

４　委員外議員出席者（なし）

５　参考人として出席した者（４名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育委員会委員 | 東小川昌夫君 | 教育委員会委員 | 冨田教代君 |
| 教育委員会委員 | 篠﨑和則君 | 教育委員会委員 | 丸山陽子君 |

５　説明のため出席した者の職，氏名

| | | | |
|---|---|---|---|
| 教育長 | 志田晴美君 | 教育部長 | 増子孝伸君 |
| 教育委員会事務局教育部参事 | 菊池浩康君 | 教育委員会事務局教育部参事兼教育企画課長 | 三宅　修君 |
| 総合教育研究所長 | 春原孝政君 | 学校管理課長 | 細谷康之君 |
| 学校保健給食課長 | 小川佐栄子君 | 学校施設課長 | 和田英嗣君 |
| 総合教育研究所副所長 | 湯澤康一君 | | |

６　事務局職員出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 法制調査係長 | 富岡　淳君 | 書記 | 昆　節夫君 |

午後　１時３０分　開議

**○鈴木委員長**　御苦労さまでございます。

ただいまから，文教福祉委員会意見を聞く会を開会いたします。

皆様方にはお忙しい中，水戸市議会文教福祉委員会意見を聞く会に御出席をいただきまして，誠にありがとうございます。

まず初めに，私のほうから一言御挨拶をさせていただきます。

改めまして，私は文教福祉委員長の鈴木宣子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は，教育委員会委員の皆様方には御多忙中の折，意見を聞く会の開催につきまして，御理解と御協力を賜りましたことに心から感謝を申し上げます。

また，日頃から学校教育の運営等に御尽力をいただき，改めて感謝申し上げます。

さて，コロナ禍における学校教育につきましては，ＧＩＧＡスクール構想が急速に進展している状況でございまして，私ども水戸市議会におきましても先日臨時会を開催し，１人１台のタブレット端末や大型モニターの導入に係る補正予算等を議決してきたところでございます。

水戸の未来を担う子どもたちの育成に向け，教育現場ではまさに大きな変革が求められているところでありますことから，本日の議題といたしましては，ＩＣＴ教育の推進について，また，学力向上と教員の資質向上についてと設定をさせていただきました。

限られた時間ではございますが，どうか忌憚のない御意見をいただき，今後の私ども議会活動の参考にさせていただければと考えておりますので，本日はどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして，水戸市教育委員会委員，教育長職務代理者の東小川委員から御挨拶をいただきたいと存じます。

**○東小川参考人**　皆さん，こんにちは。今御紹介を賜りました委員の東小川でございます。

立春を過ぎましても大分風が冷たくて，頬を刺すような風が吹いております。

本日は，文教福祉委員会の意見を聞く会にお招きいただきまして，教育行政に関しまして，私たち委員の立場から，そして皆様方議員さんの立場からお互いに意見を交換し，今後の水戸市の教育がよりよいものになる礎となるように努めていきたいと考えているところでございます。学校現場の視察等も計画されていると聞きましたので，その実態の把握にも努めまして，今後どのように水戸市の教育行政があるか，限られた時間かとは思いますが，私たちの御意見を聞き取りいただいて，議会の中で，文教福祉委員会の中でお生かしいただければ幸甚に存じます。今日はよろしくお願い申し上げます。

**○鈴木委員長**　ありがとうございました。

続きまして，自己紹介をお願いしたいと思います。

まず，私ども市議会側から，綿引副委員長より自席にて順次お願いしたいと思います。

**○綿引副委員長**　今日はお世話になります。

副委員長をさせていただいております綿引でございます。限られた時間ではございますが，どうぞよろしくお願い申し上げます。

**○田口委員**　委員の田口米蔵と言います。皆さんの貴重な意見を頂戴して，今後の活動に生かしていければ

というふうに思いますので，よろしくお願いいたします。

**○袴塚委員**　委員の袴塚でございます。今日は大変お忙しい中，御苦労さまでございます。よろしくお願いします。

**○後藤委員**　同じく，委員の後藤通子です。今日，半日ではございますが，どうぞよろしくお願いいたします。

**○木本委員**　同じく，委員の木本でございます。本日は，貴重なお時間を賜り，ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

**○土田委員**　同じく土田記代美と言います。本日は，どうぞよろしくお願いいたします。

**○鈴木委員長**　続きまして，水戸市教育委員会委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

**○冨田参考人**　冨田と申します。本日は，このような栄誉ある文教福祉委員会にお招きいただき，ありがとうございます。今日の視察を通じて，水戸市のＩＣＴ教育がより充実したものとなるように研さんを積んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**○篠﨑参考人**　弁護士の篠﨑と申します。よろしくお願いします。私は保護者の一人でもありますので，その立場から御意見述べさせていただければと思います。よろしくお願いします。

**○丸山参考人**　同じく，教育委員をさせていただいております丸山洋子と申します。よろしくお願いいたします。皆様との今日の話合いにおいて，今後の委員としての活動の参考になりますように，いろいろ理解を深めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**○鈴木委員長**　ありがとうございました。

次に，本日のスケジュールについてでございます。

まず，本日の議題につきましては，教育委員会から説明をいただいた後，下大野小学校に移動しまして実際の授業現場を視察していただきます。その後，こちらに戻りまして意見交換を行いたいと思います。

それでは議題につきまして，教育委員会より説明願います。

湯澤総合教育研究所副所長。

**○湯澤総合教育研究所副所長**　それでは初めに，ＩＣＴ教育の推進について，総合教育研究所提出資料により御説明いたします。

資料の１ページを御覧願います。

本市では，提示されたＩＣＴ機器を活用し，これまで教員が培ってきた指導方法とＩＣＴを効果的にミックスし，主体的，対話的で深い学びの視点からの授業改善を図りながら，個別最適な学びと協働的な学びを充実し，変化する社会に主体的に対応できる子どもたちを育むことを目指してまいります。

１，１人１台端末の活用についてでございますが，(1)日々の授業では，デジタル教材による学習やインターネットを利用した情報収集，ＡＩドリルによる個別学習，複数の児童，生徒による協働的な学習などにＩＣＴを活用いたします。

具体的なＩＣＴを活用した授業スタイルにつきましては，恐れ入りますが，別添の資料１を御覧願います。

一番左の欄がＩＣＴを導入する前の一般的な授業の流れでございます。真ん中の欄は学習の場面ですが，

ＩＣＴを活用しても授業を行う際の学習の流れ自体は変わりません。初めは導入の場面ですが，大型提示装置を使うことで，子どもたちにとってはより学習課題が把握しやすくなります。２段目は個人で考える時間で，自分の考えをタブレット上に書きます。先生は，先生の端末で子どもの進捗状況を把握できるため，支援が必要な子どもに対し，助言等のアドバイスが可能となります。３段目は，グループで話し合い，代表者がタブレットに記載した内容をそのまま大型提示装置に映して発表します。また，画像等を使って発表することも容易になります。４段目は，まとめですが，提示されたまとめをノートに書きます。また，振り返りをウェブアンケート機能を使って行います。簡単な確認テストも行え，採点も自動で行えます。

このような流れで授業を行うと，従来の授業と比較して時間も短縮できるので，その時間を個別にＡＩドリル等の取組に充てることができます。

恐れ入りますが，資料に戻っていただきまして，１ページを御覧願います。

そのほかの１人１台端末の活用についてですが，(2)臨時休業等における学習の保障として，双方向によるホームルームや授業を実施いたします。

(3)外部施設との交流や外部講師などによる質の高い学習としまして，大学等の講師による専門性の高い授業の実施，学校間による合同授業などを実施してまいります。

ページを返していただき，２ページを御覧願います。

(4)不登校等の配慮が必要な児童，生徒への支援といたしまして，教室と家庭をつなぎ，授業を配信するほか，担任と児童，生徒をつなぎ，互いに顔を見ながらの面談などを実施してまいります。

２，教員への研修体制についてです。

(1)ＧＩＧＡスクールプロジェクトリーダーにつきましては，学校長から推薦された教員等で構成し，ＩＣＴを使った効果的な授業の実践事例の作成や各ブロック内の校内研修の講師として研修を実施するなど，市内教職員へのＩＣＴ教育の推進を図ってまいります。

(2)ＩＣＴ支援員につきましては，現在４名を配置し，学校で研修会等を実施しております。来年度はＩＣＴ支援員を増員し，学校に対するサポート体制の充実を図ってまいります。

(3)ＧＩＧＡスクールサポーターにつきましては，ＩＣＴ企業のＯＢなどＩＣＴに関する知見を有する者で構成し，アカウントの作成，下記にございます教師用の活用マニュアルや児童，生徒用の使い方ハンドブック等の作成を行っております。今後，各学校で教員への使用方法の周知等学校に対するサポートを行ってまいります。

(4)研修計画でございますが，導入に向けた研修につきましては，管理職研修や校内リーダーの研修，教職員共通の研修など対象者別に狙いを決めて，表にございます研修に取り組んでいるところです。特に，校長研修では文部科学省ＩＣＴ活用教育アドバイザーによる講演をオンラインで行い，ＩＣＴの活用について意識づけを図ったところでございます。

ページを返していただき，３ページを御覧願います。

活用に向けた今後の研修でございますが，ＧＩＧＡスクール研修として全校１人ずつ教員を集め，年間５回実施するほか，法定研修でございます若手教員研修や中堅研修の中で，授業での活用等の研修を実施してまいります。

３，教員の活用目標についてでございますが，確実に技能を向上させるため３つのステージを設け，段階的に教員がＩＣＴを使いこなせるようにするものです。

ステージ１では，一斉授業，個別活動で活用できるようにするとともに，臨時休業時においても活用できるようにするものです。ステージ２では，協働学習や話合い活動による活用を図れるようにするものです。ステージ３は，学習ログ（履歴）を活用できるようにするもので，ＡＩドリルの学習データから苦手箇所を把握し，学習指導に生かすことなどをできるようにするものです。

４，端末の持ち帰りについてでございますが，文部科学省ＩＣＴ教育活用アドバイザーなどから，ＩＣＴ機器を家庭においても十分活用すべきとの見解が示されております。本市といたしましても，ＩＣＴ機器を家庭学習においても活用したいと考えております。

⑴家庭学習での活用でございますが，家庭ではＡＩドリルを活用した宿題や復習，またデジタル教材を活用した自主学習などを行います。

⑵家庭への端末貸出しについてですが，端末が必要な児童，生徒は端末を持ち帰ります。また，インターネット環境が必要な家庭にはモバイルルーターを貸し出します。貸出しのフローについては，資料２に記載してございますので，後ほど御確認願います。持ち帰りのスケジュールについてですが，来年度はモデル校を中心に持ち帰りを行い，再来年度から全校で実施したいと考えております。

５，デジタル教科書についてでございますが，文部科学省では，来年度，全国の半数程度の学校において，小学校５・６年及び中学校１年生から３年生に対し，学校ごとに１教科のデジタル教科書を提供し，教育効果を検証する事業を予定しております。当市におきましても，この事業を活用し，デジタル教科書を活用してまいりたいと考えております。

６，今後の進め方についてでございますが，家庭学習におけるＩＣＴ活用やデジタル教科書への対応など，１人１台端末のさらなる活用策や諸課題について協議を重ねながら，教育委員会と学校が一体となって，本市の学校教育におけるＩＣＴ活用を推進してまいります。

なお，高速大容量の校内情報通信ネットワークにつきましては現在整備を進めておりますが，コロナ禍において部材の調達等に不透明な状況が生じており，学校によっては運用開始時期を延期せざるを得ないと考えております。詳細につきましては，後ほど担当課から説明いたしますので，御理解をお願いいたします。

ＩＣＴ教育の推進についての説明は以上でございます。

続きまして，学力向上と教員の資質向上について，資料②により御説明いたします。

本市では，水戸市第６次総合計画，魁のまちづくりＮＥＸＴプロジェクトにおいて，県学力診断のためのテストの目標指数を設定しておりますが，令和元年１２月及び令和２年１月に実施された令和元年度の結果を県の正答率と比較すると，小学校６年生の４教科平均はマイナス３．４ポイント，中学校３年生の５教科平均はプラス０．３ポイントという結果になり，目標指数を下回っております。このことは，これまで教員が培ってきた正解，知識を教え込む授業の改善と教員の指導力向上が学力向上へつながる喫緊の課題であることを教示しております。

そこで，本市では，昨年度まで県で実施しており，今年度から中核市として本市で実施している研修や訪問指導を見直し，さらに次年度から導入される１人１台端末やＩＣＴ機器を活用した，よりよい授業をつく

るための研修等を通して，教員の指導力向上を図り，全ての子どもたちの確かな学力の向上を目指してまいります。

１，教員の指導力向上に向けましては，本市の目指す教師の資質となる３つの柱，使命感，専門性，信頼を高めるため，教員の指導力向上に向けて研修の見直しを図ります。研修を行う総研の指導主事については，県内の先生方を対象にした県の教科別研修の講師も県研修センターの指導主事とともに努めております。

ア，教科別研修でございますが，各教科の実践的指導力の向上を目的とする教科別研修を増やし，研修方法も小グループでの協議や実践発表等による自主的な研修スタイルとします。例えば，初任者の教科別研修につきましては，今年度３回のところを来年度は５回に増やし，研修内容についても授業展開や実践事例協議など新たな項目も実施してまいります。

ページを返していただきまして，２ページを御覧願います。

イ，授業力向上のための研修ですが，ＩＣＴを使った効果的な授業を推進するため，授業におけるＩＣＴ活用研修を増やし，日々の授業力向上を図ります。また，中堅教諭については，中高連携の先進的な取組から，より広い視野に立った教員としての資質能力の向上を図ります。

ウ，授業名人による授業力の育成につきましては，確かな授業力を持ち，研修生とキャリアが近い授業名人の指導により教員の授業力の向上を図ります。

エ，ＧＩＧＡスクール構想の充実に向けた研修につきましては，繰り返しになりますので説明は省略いたします。

ページを返していただきまして，３ページを御覧願います。

⑵訪問指導の改善ですが，ア，レベルアップ訪問については，学力向上において，さらなる向上を必要とする学校や指導力に不安がある教員に対し，指導主事が積極的かつ継続的な指導を行うことで授業等の改善を図るものです。来年度は，より積極的に訪問して指導を行います。

イ，要請訪問につきましては，学校からの要請に応じ，授業改善や校内研修の指導，助言のために指導主事を派遣し，授業力や指導力の向上を図るもので，より一層校内研修と連動させてまいります。

ウ，計画訪問につきまして，小中学校を計画的に訪問し，学校経営，学習指導，生徒指導等の重点課題を踏まえ，その解決等について指導，助言を行うもので，複数の指導主事により分科会での指導，助言をしてまいります。

２，一人一人に応じた学習支援についてでございますが，一人一人に応じた学習支援を充実させ，学習意欲を向上させるために，次の取組を推進してまいります。

ページを返していただき，４ページを御覧願います。

⑴学習計画表と学習カルテですが，児童，生徒は学習計画表を作成し，目標と目標を実現するための手立てを考え，段階的に目標を上げていきます。教員は，ＩＣＴの活用による学習履歴や各種テスト結果と分析等を学習カルテに記録し，客観的に認識することで，きめ細かな学習支援により一人一人の学力向上に努めます。

⑵学力向上サポーターにつきましては，小中学校全校に配置し，習熟度別学習等，個に応じたきめ細かな支援を行っております。

⑶ＡＩドリルの活用についてですが，児童，生徒の習熟度に応じたドリル問題が出題され，一人一人の学習状況に応じて解き進めることができます。間違えた問題については，学年を遡って解き方の基礎を復習するなど，個に応じた学習を進めることにより学力の定着を図ってまいります。

⑸数学・学習相談「ＳＰＯＴ　ｉｎ　ＭＩＴＯ」につきましては，数学の基礎，基本の確実な定着を図りたい中学校２，３年生を対象に，冬休み，大学生等のボランティアが個別指導を行っております。令和２年度は６市民センターで実施し，延べ１６５人の生徒が参加するなど，数学への苦手意識を持つ生徒に対して基礎，基本の定着を図りました。

⑺生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援事業につきましては，生活保護世帯または準要保護世帯の小学校４年生から中学校３年生の希望者に対し，教員ＯＢや学生ボランティアが宿題やドリルなどの自主学習を支援しております。教育委員会としては，対象者に対して参加を呼びかけるなどの取組を行っております。

説明は以上でございます。

**○鈴木委員長**　ありがとうございました。

それでは，この後，所管施設の視察を行ってまいりたいと思います。

こちらのほうでバスを用意しておりますので，本庁舎北側バス停前に直ちに御移動をお願いいたします。

それでは，暫時休憩いたします。

午後　１時５２分　休憩

――――――――――所管施設視察――――――――――

| | |
|---|---|
| 市役所発 | １４：００ |
| 下大野小学校 | １４：２０～１５：４０ |
| 市役所着 | １６：０３ |

――――――――――――――――――――――――

午後　４時１５分　再開

**○鈴木委員長**　大変に御苦労さまでございます。

休憩前に引き続き，意見を聞く会を再開したいと思います。

それでは，現地での視察も踏まえながら意見交換に移りたいと存じます。

御意見等がございましたら，挙手により御発言願います。

教育委員さんの方にお聞きしたいことがある方は，そういうふうに言っていただいたりとか，また執行部の方にお聞きしたいことがあるときは，そのように言っていただけたらと思います。

袴塚委員。

**○袴塚委員**　教育委員さん方とこんな会をやりたいと申し出た本人として，責任を持ってちょっとお話させていただきます。

日頃から，皆様方におきましては本当に水戸市の教育行政について，様々な観点から御指導いただいていることについては感謝申し上げたいというふうに思っております。

そこで，ちょっと伺いをしたいんですが，日頃，私たちは，執行部のほう，いわゆる教育委員会事務局と

の対話の機会というものは持っているんですけれども，なかなか教育委員さん方の教育に対するお考え等が執行部のほうからはなかなか見えてこないということで，学力だけの話をすれば，県の平均点より水戸市がある意味下がってしまっていると。しかしながら，一方ではパソコンの導入とか電子黒板，それから英会話教育，これについては先進的にこれまで進めていると，こういうふうに思ってきたところでありますけれども，教育委員さん方の教育委員会の中でのお話の中で，そういった課題について何か論議が深まっておられるのか，その辺についてちょっとお伺いをできればいいなというふうに思っております。何を言っているか分かりますでしょうか。

執行部との対話はしていて，教育長とも話しています。ただ，本来であれば，教育委員さんの考え方の中で教育委員会の事務局が進むべきだというふうに，私はそう思っているんです。いわゆる水戸の教育問題については，まずは教育委員さん方の論議が深まってこないと，事務方だけの考え方で進んでいるということになると，ちょっと問題があるのかなと，こういうふうに思っていまして，日頃の委員会活動，教育委員さん方の活動，月に１回会議をおやりになっているわけですので，これまでの状況等をちょっとお話をお伺いできればというふうに思っているんですが。どなたでも結構です。東小川さんはいつもお話聞いているんで。

**○鈴木委員長**　東小川委員，よろしくお願いいたします。

**○東小川参考人**　では，名前が出ましたので，口火を切って私のほうから。

教育委員４名と事務局とのやり取りというのは，月１回の会合で，主に教育行政にどういうスタンスで，どういう狙いで，具体的に何をするかという場面が提示されて，その中で私たちがそれぞれの観点でものを言うと。４人が合議をして，１つのものにまとめて，それに対して話すということは，まずありません。それぞれの立場，保護者の方も含めて，そういう方がいらっしゃいますので，また私のように学校教育に大きく携わった者，その過去の経験と照らして今どういうふうに感じているか，そういうことを率直に述べて，少し改善しなくちゃならない点，見直さなくちゃならない点をその会合ごとに詰めているという現状です。

**○袴塚委員**　私個人的には，本来教育委員会があって，そしてその事務方として，そういった意向を受けて事務方が動いていくと，これが本来であるべきだと，私個人はそのように，組織の在り方として思っておりまして，そういった中にあって，今水戸市では，事務方の話を聞けば，もういじめは全くないよとか，それから学力も向上策は取っているんだとか，いろんな話を伺っているんですけれども，現実のところ，今日，総研の副所長さんのほうから，今水戸のＩＣＴ教育について含めて，いろんな話が出たんですけれども，この辺については皆さん方のほうにも御説明というか，そういうものについてはいっていますよね。これらについては，それぞれの立場があろうかと思いますけれども，逆に言うとどのような感想をお持ちなのか。もしくは，こうあるべきだというようなお考えがあるのかどうか。

**○鈴木委員長**　東小川委員さん，お願いいたします。

**○東小川参考人**　今日説明があったＩＣＴと学力向上については，以前も説明がありましたので，内容については十分承知しています。その実態をどう捉えてどう改善していくかという提案の中では，ある程度理解して，それに沿って進めてくださいねということで終わっているんです。

ただ，先ほどちょっと申し上げるのに欠けてしまった点は，委員会制度が変わりましたよね。教育委員長さんがいなくなってということで，市長さんが主催する教育総合会議，その流れの中で教育委員会制度の変

更とともに，それぞれ４人が合議をして，やはり水戸市の教育はこうあるべきですよね，こうありたいねという話合いの場がちょっと，以前と比べて欠けたような気もいたします。それは，教育委員長さんが司会をなさって，水戸市の教育に対してこのような筋でいきたいなという旗を振る方がやはりいなくなったということもありますし，そういう観点で，ちょっとお一人一人の独自の立場からものを言う範囲にとどまってしまっているのかなという，ちょっと今委員さんから話があって，反省もちょっとしなくてはいけないなと思った次第です。

**○鈴木委員長**　冨田委員さん，お願いいたします。

**○冨田参考人**　今，東小川委員が述べたように，やはり今回のＩＣＴの導入ということは，これは文部科学省からの指導ということで，４月からやらなければならないということで，実はその前にも，水戸市の場合にはこのＩＣＴ教育というのは，今日の下大野小学校の校長がお話ししていたように，平成３０年から実はこういうこともこれからやらなくちゃならないということは伺っていて，私も県の教育委員会の視察に動行させていただいて，これは近々来る課題だなと思いましたけれども，コロナの影響で突然４月からということで。

そして，１月に水戸一中での教員の模擬授業を見せていただいて，私はちょっとある意味それで安心いたしました。実は，このＩＣＴ教育は――私は大学で情報処理のほうもちょっとやっていたんですけれども――やはり機械を動かすことに子どもたちが集中し過ぎて，読む，書く，話す，これ学びの基本なんですけれども，そこがちょっと欠けるんじゃないかなという危惧があったんですけれども，水戸一中の授業を見させていただいて，今日の資料でもありましたけれども，資料１のところですかね，全てが網羅されていたんです。実際に画面を見る時間は１５分もなかったと思います。これは，１日に２時間画面を見ていると，子どもの眼筋か何か，丸山先生が専門だと思うんですけれども，それで台湾なんかは逆に目に太陽を浴びるといいということで，もう既にＩＣＴ教育と同時に外遊びなんかも推奨しているということを一時ニュースで聞いていたもんですから，そういうこともきちんと対応されているということで，ここ３年ぐらいの準備を経て，水戸市はＩＣＴ教育に進むので，大丈夫かなというふうに思いました。

それで私も，読む，書く，話すということがきちんと学びの基本で入っていたので，このＩＣＴ教育は非常に，これからの子どもたちが生きていく上の力になることだと思って，これは推進していったらいいんじゃないかということをこの前の総合教育会議でも市長にも申し上げたんですけれども，そういうことで，いつも課題をいただいて，それに対してそれぞれの立場で意見を言わせていただくということです。

先ほどの学力のところですね，ここはずっとやっぱり問題になっていました。それで，水戸市の授業評価でもここがいつも平均点がマイナス何点足りないということで，ここはしっかりやってくださいねということで皆さん多分，委員の先生方も，総研のほうも多分力を入れてやっていると思うんですけれども，多分私の推測ですと，水戸市は人数が多いですから，どうしてもこぼれる子がいますと平均点は下がっちゃうんですよ。だから，平均点だけじゃなくて，やっぱり度数みたいなもので少し見て，きめ細かく対応してしかないと底上げというのは難しいかなというふうにちょっと思っております。

以上です。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

篠﨑委員さん。

**○篠﨑参考人**　篠﨑です。

ＩＣＴのことでお話ししますと，つい先日，総合教育会議で私たちも実際にタブレットを使って授業の体験というのをさせていただきまして，これは子どもは喜ぶだろうなということ，あとうまく使えば先生方の負担も非常に減るだろうなということは実感をしました。今日実際に子どもたちが使ってやっているところを見ると，非常に熱心にやっている様子も分かりましたし，随分難しいことを子どもたちはやっているなというのも実感しまして，その意味では，今日は先進的な現場を見ましたから，時間はかかるかもしれませんが，いずれ全市においてあのぐらいのことができるようになるんではないかなというふうには思っています。

ただ，私自身は，総合教育会議でも申し上げましたけれども，ああいうタブレットを使ってというものと旧来型の授業とでは，やはりそれぞれにいいところと悪いところがあると思いますので，いいとこ取りできたらいいんじゃないかなと，そういうふうなことを思っています。

あとは，委員会の中でほかのことでお話ししますと，私自身は小学生の子どもを持つ親ですので，保護者という立場で，うちの息子もふだんタブレットを使って遊んだり，多少勉強もしているかもしれません，やっています。そういうのを見た感想で，うちの子が同じことできるのかなというような見方でお話しをさせていただくということもあります。あとは，このほか，本業が弁護士ですので，学校でのトラブルとかそういった案件，これまでにも，水戸市のことばかりではありませんが，ほかの自治体でも見ておりますので，そういうふうにならないためにはどうしたらいいかなという観点とか。あと，働き方改革が学校でも言われていますので，学校の現場で先生方が疲弊しないように，どうすれば士気が上がるかなとか，いい教育に専念していただけるかなという，そういう観点から意見をなるべく述べられればなと思って毎月会議に参加しています。

以上です。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

丸山委員，お願いいたします。

**○丸山参考人**　丸山と申します。よろしくお願いいたします。

一昨年，２年前の１０月から教育委員に加入させていただきまして，皆さんと意見交換を度々させていただいております。委員にならせていただいて割とすぐに霞が関での研修会というのに参加させていただいて，そのときの研修タイトルが４項目ありまして，先ほどのいじめ問題ですとか，それから情報問題ですとか。私は情報問題を選択しましたので，その情報問題に関するディスカッショングループ，全国からいらっしゃった教育委員会の方と半日ぐらい研修をしてきたんですけれども，どうしても話題がＧＩＧＡスクール構想で，１人１台端末を進めているんだという話で，各地域の導入率の話になりまして，その時点で水戸はかなり遅れていて，黄色信号が点滅しているようなエリアとして地図にあったものですから，遅れ気味の地域の方には前向きに検討してくださいというようなお話もいただいて戻ってきたんですけれども，コロナのおかげでといいますか，このたび２万台ということで，１人１台が急速に進行して，実現されたということではよかったと。これをいかにしてうまく使っていくかということで，この間水戸一中の授業を見せていただいたり，今日も授業を見せていただいたりして，着実に進んでいるなという感じは受けているんですけれ

ども，ＩＣＴ問題が着実に進んでいるということはいいことで，もちろんそれに対して問題点も出てくるでしょう。モラル的なところもありますでしょうし，さっき御発言いただいた近いところでの作業が多くなると眼軸が長くなって近視が増えていくというようなリスクも考えられるといったようなこともだんだん出てくると思うんですけれども，そういうこともいろんな経験を踏まえて是正されていくものというふうに考えています。

医師をしていますので，そういった視点で，医学的にこういうことが心配かなというふうな点などは定例会のときなどに少し発言させていただいたりして，そういう点では少しお役に立てていければなと思っているところです。

個人的に，教育ということに関しては，やはりＩＣＴの元というのも，多分国際競争能力を日本人はつけていかないとアジアにおいて今後生き残っていけないというところに始まっているんだと勝手に思っているんですけれども，そうすると，やはり道具としてＩＣＴをうまく使っていく，それで思考能力を高めていくというところに大切さがあるんだと思っていて，そういう意味では，プログラミング，そして問題解決，問題の発見とプランと，そしてその実験と，そして解決策の提案というふうに，子どもたちが自主的に生活の中から解決していく能力を持った子たちが多く育ってきてほしいなと思っています。

同時に，日本人はなかなかディスカッションが苦手なので，１つのことに対して論理的に戦っていける力，ディベート力を育てるような授業もやっていってもらえたらうれしいなと個人的には思っています。ですので，教育に関してはそういうふうに思っておりますし，医学的な面で少し気づいた点などがあれば発言させていただくというようなことで，教育委員として今後とも役に立たせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

**○鈴木委員長**　貴重な御意見ありがとうございました。

ほかに，よろしいですか。

袴塚委員。

**○袴塚委員**　ありがとうございました。

私個人的には，ＩＣＴ教育は必ず必要だし，これからもさらに進化して，国際力を高めるという意味からも避けて通れない教育ツールの一つだと思っています。ただ，先ほども篠﨑先生からお話がありましたように，やっぱり昔ながらの教育のよさ，そして現在のＩＣＴ教育を含めた，そういったものを活用しながらのよさ，これをいかに融合，マッチングさせていくかということがやっぱり一番大事だというふうに思っていて，その中で，何としても私たち文教福祉委員会としては，せめて県内では水戸の教育はすごいよねと，こういうふうに言われるような教育の在り方と，成果と，そういうものが伴っていかないとやっぱりまずいんではないかと。まずいんではないかというより，水戸の教育価値が，効果が上がっていかないんではないか。そのためには，教育現場をどうするのか，そして今の，例えばタブレット教育，ＩＣＴ教育にしても，要は今先進事例が下大野小学校であって，実際のところ，これから全市内にこれが進んでいったときに，どこまでの対応力が今備わっているのかという一つの心配があります。

もう一つは，教育総研という類を見ない，やっぱり教育の城というか館を水戸は持っているわけですよね。僕は県の教育会館よりもすばらしい教育に関するものを佐川市長のときにつくっていただいて，それが今教

育の基礎となっているにもかかわらず，県の水準を下回るという結果について，いささか何だよという思いが実はあったりして，ぜひ教育委員の皆さんには，今度教育長も替わりましたけれども，志田教育長とともに教育力のアップ，それから今のＧＩＧＡ教育の在り方の推進，そして何よりもそれを教える先生の資質向上に向けてはどうすればいいのか。みんながみんなＩＣＴ教育に対して同じようにできればいいんですけれども，なかなかそこが難しいような気がしてならないんです。その辺をどうすればいいのかということ。

それから，タブレット格差，要するにＧＩＧＡ教育の格差が生じやしないのかと。今日もぴこんぴこんと何かポイントが鳴ったりしている子もいれば，何か全く当たらない子も中にはお出でになったりして，非常にできる子とできない子の格差が――昔は手を挙げたり何かで目に見えるものがあったんですけれども，今はお友達同士では誰ができたとかできないとかというのは分かるようになっているのかなっていないのか分かりませんけれども，その辺をどういうふうにフォローしていくのかということがこれから課題としてあるんではないかなというふうに思っています。パソコンを導入した１０年前ぐらいのパソコンは使われずにそのまま終わってしまった。したがって，今回のタブレット，それから黒板等についても，電子黒板を導入したわけですけれども，これもなかなか現場では活用されずに，台数が少ないから活用できないんだという言い方をする人もいるんですけれども，それこそそうじゃないんではないかなと。その辺について，やっぱりしっかり教育委員さん方のお力添えいただきながら，こういった問題解決ができれば大変うれしいなと，こういうように実は思っていました。

今日はそういう私の思いも，お話を聞いていただいて，それぞれのお考えをいただいた中ですので，ぜひそういった意味ではさらに御協力いただいて，水戸の教育がさらに進化できるように，また子どもたちが本当に目を輝かせて羽ばたけるような環境ができるように御尽力いただきたいと，私はそう思っています。

**○鈴木委員長**　ほかにございますか。

木本委員さん，お願いします。

**○木本委員**　今日は，お忙しい中，ありがとうございました。

私も，本当に時代は変わったなということで，一昔前は青空教室とかやっていたのに，今じゃもう最先端のエアコンのある部屋でパソコンを使って授業をするということが当たり前になったんだなということをつくづく感じました。

ただ，先ほど質問して，ちょっと私言葉足らずで自分でも何言っているかよく分からなかったんですけれども，結局学習指導要領は変わらないわけですよね，基本的には。そこにタブレットを使ってより効率よく考える力，もしくは論理的に考える力をつけてもらうということなんですけれども，私が思ったのは，タブレットを使って，だったら逆に９年間で学ぶべき，いわゆる義務教育の内容をもうちょっとぎゅっとできないのかなと思ったんです。タブレットで効率よく学ぶことによって。その空いた時間でいわゆるプログラミングなんか，先ほど外で遊ぶのが推奨されていて，外で遊ぶことなのか，はたまたよりもう一歩深く論理性とか。結局パソコンがどう使えるかというより，これは多分全部中身の話をしているわけですよね。これを使ってより論理的に考える脳みそとか，主体的に考えるだとか，それが，何かそういうことができないのかなとちょっと思ったんで，これからどういう方向性にいくのかなということがよくまだはっきりと見えないなと思ったんです，私は。だから，そこは現場でより合理的にできるんだったら，もっともっと早く基礎学

力，学ぶ，書くは早く終わりにして，次のステップに行ってもいいんじゃないかなと思ったんで，それがいいのか悪いのかという部分もあるんですけれども。ただ，何かそういうことのほうが問われている問題なんじゃないかなと私はちょっと思ったんで，ぜひそういった，より効率よく義務教育を進めて，空いた時間をつくるほうがこれからは大事なんじゃなんかなと，私の勝手な意見です。ありがとうございました。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

土田委員。

**○土田委員**　私も感想を兼ねてなんですけれども，今日の下大野小学校は，それぞれ人数が少ないので，余裕もあって，先生も一人一人目が届いていたし，慣れているのもあったと思うんですけれども，これがもっとぎゅっと詰まっちゃっている，３５人いるようなクラスだとどういう状況になるのかなというのがちょっと心配に思いました。先生１人で，今日だと一番多かったのが３年生で１８人，そのぐらいだと先生は見渡せてはいたんだけれども，ただ，私が見ていた子で同じ画面が出せていない子がいたりして，その子に気づくのに結構時間がかかったりというがあったので，そこら辺はちょっと工夫していかないと，３０人以上のクラスで，もっと密な感じで集中しちゃって，顔上げる時間がずれていったりしないように努力をしていただきたいなという感想を持ちました。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

後藤委員。

**○後藤委員**　下大野小学校でＩＣＴを先進的にやっているところを拝見して，いろんなやり方が授業の中でもあったんですよね。ドリルをやっているところとか，あとは何かをつくっているところとか，あとは意見交換をしているところとか，様々なやり方があって，工夫してＩＣＴを使って，取り入れていくことができたら，これからどんどん子どもたちもそれを使いこなしていい学習ができるのかなというふうに今日は思いました。

それから，教育委員さんのお話をお伺いしまして，それぞれの学校の先生の立場や，あとは情報の専門の委員さんや，あとは弁護士さんと，あと保護者の意見ということと，あとお医者さんということで，様々な分野の方がしっかりと教育委員をされているということで，私とても安心しました。どうもありがとうございました。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

田口委員さん，お願いいたします。

**○田口委員**　どうも今日はありがとうございました。

さっきも，先ほども委員さんからありましたけれども，時代は変わったなという，私なんかもう７０近くなるわけですから，そうすると世代が違う，授業のやり方が違うと。それで，今袴塚委員からもありましたが，教育委員会として，委員として，行政の教育委員会に対してこうあるべきだとか，あるいはこういう指導をお願いしたいとかというような意見がスムーズに出されているのかというのがちょっと疑問に思ったところなんですけれども，そういう中での会議だけで個々の意見を述べられるというだけで終わってしまうということが何かちょっと，もう少し教育委員会の皆さんにはやはり子どもたちの教育，学校教育ということでいろいろ意見を，合意というか，それはないでしょうけれども，よろしくお願いをしたいなと思っている

んですけれども。

それと，教育委員会事務局としては，この教育委員会委員の皆様方と教育の在り方，水戸市の教育の在り方とか，事業をするに当たって，この事業はどうでしょうじゃなくて，教育のその根本たるもの，そういう点でのいろんな話合いということはないんですか。

**○鈴木委員長**　志田教育長，お願いします。

**○志田教育長**　教育の在り方そのものなんですけれども，教育論みたいなものは直接今までなかったかもしれないですけれども，例えば今日のＩＣＴ教育とか働き方改革，いろいろ個別の教育の根本についてそれぞれ教育委員会制度というのは，それぞれ各界代表している方がバランスよく水戸市の場合は入っていると思っていますので，そこでそのテーマに基づいて教育論を交わしているというような状況でございます。

**○鈴木委員長**　田口委員さん。

**○田口委員**　それも貴重な御意見をいただければなと。そして，その教育行政にそれを反映しているというふうな感じでよろしいですかね。非常に皆さんすばらしい方なので，ぜひいろんな提言がありましたらお願いしたいなというふうに思っています。

それから，来年，再来年あたりにはタブレットの貸出しというか持ち帰りまでできるという体制が組まれると。ただ，この持ち帰った場合のタブレットを使うということは，個人的にも使えるんですか。それはできない，学校との通信だけだよと。そういうのはどういう感じで管理するんですか。

**○春原総合教育研究所長**　現在考えている活用の仕方としましては，基本的には学校の学習課題を持ち帰ったタブレットを使ってやるというようなことでの持ち帰りを想定して準備を進めてまいりたいというふうに考えています。

**○田口委員**　それはそうですけれども，ほかにも使えるのかなということを聞いたわけです。

**○春原総合教育研究所長**　自由に調べたいようなものを調べることができる。

**○田口委員**　調べる以外にもあるでしょう，いろいろな。調べるというのか，何でも，いろんな分野のことを調べる。ただそれが，教育関係以外にも個人的に使いたい，見たい，そういうものまで使えるということになるわけですか，このタブレットは。通信機器と同じように。

**○春原総合教育研究所長**　学校で持ち帰りをするタブレットにつきましては，フィルタリング等がかかっているものですので，基本的には有害なアクセス等ができないような状態のものを貸し出すことを想定しております。

**○田口委員**　想定じゃなくてそうですね。

**○春原総合教育研究所長**　そのように考えております。

**○鈴木委員長**　よろしいですか。

**○田口委員**　失礼なことを言って申し訳ありません。

**○鈴木委員長**　もし教育委員さんのほうから議員の方に要望とか御意見とか，何かありましたらぜひ言っていただけるとありがたいです。

東小川委員さん。

**○東小川参考人**　今日下大野小学校で見たＩＣＴを使った授業というのは，これまで私たちが経験していた

指導者の立場で見ると，非常に一人一人に近づいているなという感じがするんです。今まで３５人，３６人の学級があって，１人の担任が同じ学習をさせると，全員の分を見られなかったんです。見たくても見られない。時間的な余裕がない。あの子が何やっているか分からないままそこを過ぎてしまう。そして，結果としてできなかった，できたという２つの道が残されたんです。今回，５年生がやっていたように，それぞれがやっていることが一人一人に焦点を当てて担任が把握できる。それは，このＩＣＴでは非常に有効性があるんじゃないか。ですから，これまで３５人学級で，幾ら頑張っても１日６時間小学校にいても１回も話ができない子がいたんです。これは，もう物理的になかなか難しいと。それが，ＩＣＴを通してその子の書いたものが見られる。そして，全員で見比べることができる。これは非常に有効な一つの手段ではないかと。忘れてはならない授業のこともあるんですが，そういうふうな活用の方法をぜひ進めていきたいというふうに思います。

それと，袴塚議員さんが御心配の学力の点数差なんですが，御承知のように，水戸市の児童，生徒数というのは県の約１０％です。県に１学年２万人いれば，水戸市には約二千何百人の子どもがいる。その状況というのは，特に３５人学級に絡まる状況が非常に多いんです。今日見たように少人数の学校もありますが，多くの学校がもう３６人を超えて，学年が４クラス，５クラスになってきている。少人数学級が来年から広がっていきますが，３０人になった場合にそれがどう有効的になってくるか。水戸市や大規模な市町村においては，非常に大きな人数を１人の先生が抱えた中で学力診断テストをするので，点数的に見ると非常に動かしがたい粗点が出てきてしまうということがあります。

また，学力の点数というのは，ある一面だということを私たちもよく押さえておかないと，今年は出来がいいから３点プラスでよかったね，何か来年はちょっと心配だねということになってきます。結果として，それが，点数が２点，３点低くて，水戸市の学力が駄目だ，何とかしなくてはと考えるんではなくて，あれは学力を表すもののほんの一面だという捉え方をして，県内に発信できるような水戸市の教育でありたいなと思うんです。点数がよければ，子どもはもう喜んで，楽しんで，いじめもなく来ているのか，そうじゃない。やはり，点数はちょっと上下がたがたしているけれども，楽しんで，喜んで，自己達成感があるような学級で過ごしている，これも学力形成の一つの大きな要素なので，そういう教師を育てる，教師の資質を伸ばすという点では非常に大事な面じゃないか。ですから，学力は上がったけれども，学級内で仲間外れやら不登校は増える，不登校の子がいるから成績は伸びる。これじゃいかんのですよね。

ですから，そういうバランスの取れた指導力を持った教師を水戸市として，先ほどお話があった総研を中心にこのような案で伸ばしていくという道筋をぜひ続けなくちゃいけないんじゃないか。確かに，見た目ですと点数は如実なんですよね。やってみたら県より３ポイント，４ポイント下がった。なぜこれだけ頑張っているのに上がらないのか。やはり，人数が多い学級が，学校が多い。ですから，今回の３０人の学級が，これを転じて指導のしやすさ，加えて，一人一人に焦点が当たるＩＣＴを活用した結果をさらに伸ばすいいチャンスじゃないかと。私は，過去の経験からそんな感想を今日持ちました。

以上です。

**○鈴木委員長**　ありがとうございました。

袴塚委員。

**○袴塚委員**　今せっかく東小川先生からそういうお話いただいたんで，なぜ学力を心配しているかというと，やっぱり水戸市というのはこれまで，例えば，全て東大がいいとは言いませんが，これまで水戸一高から東大に入る子というのは２桁は間違いなくいたよと。しかしながら，ここ数年は半分以下になっちゃったと。こういうふうなことを見ると，やっぱり人数が多いから先生方が回らないとかということは一つの現象かも分からないけれども，我々は県都・水戸市としてやっぱり質の高い教育を提供し，そして御父兄の皆さん方にも安心して水戸の教育に預けていただける，そういう環境をいかに私たちがつくっていくか，私たちが助言をしていくか，こういうことが私たちの仕事だというふうに，教育についてはそう思っている。だから当然，成績がいいからいじめがあっていいよと，そういうことではなくて，やっぱりお互いの心を融和しながら学力向上に向けて努力していくと。それはいろんな理由があるでしょう。しかし理由があるにしてもやっぱりみんながそういう方向を向いて子どもたち育て，育んでいくんだという，そういうことが私は大人の責務だと思うんですよ。そういう環境をつくっている我々の責務だと。

したがって，先生方にも大変申し訳ないけれども，やっぱりそれぞれの研さんもしていただきながら，せっかく総合教育研究所という学習指導については物すごいツールがあるんで，そういうところをさらに活用していただいて，できれば頑張っていただきたいなという意味でのエールを送らせていただいているということなんで，全て子どもたちが成績がよければみんないい子どもだと，しかし，陰湿ないじめがいっぱいあって，表に出てこないいじめがいっぱいあるよ，こういうことでもまずいわけですから，そこはバランスの問題だというふうに思いますけれども。

ただ，最近の風潮として，私も最近ちょっと総研をのぞいたりはしているんですけれども，被災して，教育委員会が向こうへ行っているときは，ややもすると教育総研の利用度というのは僕は物すごく高かったのかなというふうに思うんですよ。というのは，先生がよく来られていた。今ちょっと行くと，執行部が減ったからそう感じるのかも分かりませんけれども，もう少し活用していただいてもいいのかなという思いがしたりしているんですよ，実は。ですから，その辺も含めて，私たちはあくまでも子どもたちの成績だけを重視しているということではなくて，人間力とか，いろんな総合力を深めながら，しかし，県都水戸市の教育はすごいねと言われるような環境をいかに私たちが提供できるか。水戸市としてね。教育委員会さんも含めて，私たちができるかというところがやっぱり我々がいつも論議していかなくてはならない課題ではないかなという気がしていたものですから，ちょっとその辺の話をさせていただいたということなんで，東小川先生の気持ちはよく理解はできました。

**○鈴木委員長**　ほかに何かございますか。

**○袴塚委員**　篠﨑先生，何かないんですか。ＰＴＡの，保護者代表として何か求めるものが。

**○篠﨑参考人**　親になって学校に関わるようになって，何十年かぶりに，自分が子どものときと比べて学校というものを見ていますけれども，私が子どもだった頃と比べて学校は随分洗練されていて，よくなっていて，環境もいいですし，今の子どもたちは恵まれているなというふうに思います。ただ，それなのになぜか幸福度みたいなものをさほど感じていない子もいて，その辺りが何でなんだろうなというふうにすごくいつも思いながら子どもを見たり学校を見たりしています。先生方も本当に熱心ですし，自分で見ていてもこういう先生に自分も教わりたかったなというような先生が，本当に今でもいっぱいいます。でも，やっぱり何

か昔と違って，先生方が非常に疲弊しているなと，やらなきゃいけないことが多くて，学校が終わった後もいろいろ，保護者対応があったりとか，そういうこともあって，先生方が本当に大変だなという印象です。昔は結構先生方がちょっと強く叱ったりしても全然問題にもなりませんけれども，今はそういうこともできませんし，もちろん体罰なんか絶対駄目ですし，何か保護者が先生に文句言うなんてことは，よほどのことがない限り昔はなかったわけですけれども，今はそういう意味で要求度も非常に上がっていて，先生方は真面目なので，やっぱり皆さんきちんと対応しようとしている結果疲弊していくと。その辺りがすごく心配で，その意味で働き方改革みたいなところにはすごく注目をしているところです。

**○鈴木委員長**　ありがとうございました。

木本委員。

**○木本委員**　学校の先生の心の面について，文教福祉委員会でもそれは必ずテーマになりまして，今回のＩＣＴでも，それはよく袴塚委員が言うんですけれども，そもそもこれ先生が対応できるのかというのがまず課題というのと，あとその前段として，そもそも先生のボリュームが多いので，国のほうも相当それを意識して，提出案件を減らすとかいろいろやっていますけれども，恐らくまだまだ，やっぱり昔に比べて相当先生に対するプレッシャーというんですか，そこは上がっていて，鬱病の発生率もすごく高いですし，そこをどういうふうに。

あと，もう一つ問題なのは，あまりにもちょっとイメージが悪いので成り手不足というのが今出てきているので，そこは本当にこれからどういうふうに，イメージアップもそうですし，ただ……

〔発言する者あり〕

**○木本委員**　何が言いたいかというと，ＩＣＴを通してどうやって義務教育がアップグレードできるのかなということを考えているんですけれども，先ほど東小川先生が言ったみたいに，まずはやっぱり１人の先生が各生徒たちとこれを使ってより近くなるということが多分すごく大事なところで，その生徒それぞれにあわせてそのスピードがあると思いますので，学ぶスピードとかコミュニケーションの広がり，そういったものを通じてよりいい方向に導かれればいいなというのがまず一歩かなというふうに思います。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

**○袴塚委員**　委員会でこんなこと言えよというのはないですかね。お前ら何やってんだとお叱りいただくのを覚悟で今日は皆さんとお会いしているんです。ぜひ，こんな論議をしろというのを言っていただければ。

**○田口委員**　でも，今日の下大野小学校の大型テレビは本当によかったね。自分はそこまで大きな画面が必要かなと思ったんだけれども，よかったと言ってましたね。やっぱり現場の声聞かないと分からない。

〔発言する者あり〕

**○袴塚委員**　１０人とか８人だからあんな大きく子どもの顔が見える。

〔発言する者あり〕

**○袴塚委員**　だから，本当は学校の格差を考えて，生徒の多いところは１００インチぐらいのものを入れればいい。表情がつかめない。だって，あれが３０人学級なら３０コマになるんだよ。先生が入るんだから３１コマになっちゃう。そうすると，なかなか子どもさん方の表情が見えない。やっぱり先生は表情を見て困っているのか困っていないのか，どういことでつまずいているのかって，表情だと思うんだよ。だから対

面学習が大事なんですよね。そうすると，やっぱり一律に６５インチじゃなくて，先ほど東小川先生が言ったように，人数の多いところは１００インチぐらいのやつを入れて，子どもさん方の感情を捉えられるぐらいの画面の大きさじゃないとやっぱり僕は駄目だと。あれ，下大野だから６０インチぐらいでもいいけれども，でもあれは人数多くなったらやっぱり僕は小さいところで見るようになっちゃって表情も何も見えないと思うよ。当然ながら，それぞれの答えも，画面が小さくなるんですからね。この辺は予算が決まっちゃったからしょうがないけれども，でも無駄な予算使わないのには補正を組んででも学校に応じてインチ数を変えたほうがいいかも分からないわ。

〔発言する者あり〕

**○土田委員**　ちょっと先生にお聞きしたいんですけれども，私今日子どもたちのを見て，思ったよりも出て来る字が小さくて，私なんかは老眼だからこれ見えないと思ったんですけれども，遠視の子って結構いるじゃないですか。よくパソコンずっとやっているのにブルーライト防ぐゴーグルをしたほうがいいよとか大人だと言われたりして，その影響とかというのは心配しなくていいんでしょうか。

**○丸山参考人**　ありがとうございます。前回の定例会のときでもブルーライトの問題は出てくるので，フィルムを貼るとか何らかの対策が必要ではないかという意見が出ていたりしましたので，一つ一つ対策を立てていければなと思っています。

あと、インチ数の問題は，今コロナでああいう形になっているので，恐らく平常に座れるようになれば画面でなくお子さん方の表情も見えるような形に落ち着いていけば，既に購入してしまっているものでのある程度うまく対応できるのかなとは思われるんですけれども。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。よろしいですか。

綿引副委員長。

**○綿引副委員長**　すみません，いろいろありがとうございました。

先ほど，袴塚委員さん，田口委員さんも言われたように，我々側から見る教育委員さん，教育委員会の旧の制度から今の制度に変わったというところは東小川委員さんから御説明をいただいて，役回りもちょっと違ってきたのかな，あと役をやるに当たっても状況も変わっちゃったのかなというのは初めてお話をお伺いして，理解もさせていただきました。その上で，先ほど来袴塚委員さんからありますけれども，教育委員さんから見てやっぱり所管をする文教福祉委員会というものがどうあるべきかというのは，率直な御意見はやっぱりいただきたいというのがこの場の大変重要な意義だと思っています。なかなかマイクを使いながらで言いづらいと思うんですけれども，一言ずつぐらいいただきたいなというのが一つ。

あともう一つは，帰りがけに，海野校長先生に，タブレットを使ったことに関してどのぐらいの人数がいいですかねと言ったら，ある数字を答えていただきました。ここではちょっと発言は控えさせていただきますけれども，年末に少人数学級に移行する国の方針が決まって，今回タブレット導入するに当たっても３５人では画面が小さくなっちゃうとか現場でのそういういろんな状況も出てくるし，ある程度教育委員さんたちが考える，各専門分野を抱える教育委員さんたちが考える，適正とは言わないですけれども，このぐらいの人数が，１教室何人ぐらいだったらいいのかなという感想というか御意見をちょっとお聞かせいただければと思います。

**○鈴木委員長**　すみません，お一人ずつ，２点にわたってお願いします。

**○東小川参考人**　２つの点で，私は今４０人学級から３５人に変わったと。となると次は３０人だろうという発想になるんですが，３０人になった場合，３０人を切ると１４，１５の学級が出てくる。１４になるともう集団教育から外れてしまうんじゃないかと。よく私が現役の頃言ったのは，せめてドッチボールをクラスでやりたいよね，当たる子も投げる子もいないというドッチボールじゃ困るでしょうというんで，私はこの５年かけて３５人を達成する経過をよく見て，今の子どもの適正規模は，私は当面３５人で経過を見たいと。ですから，１８，１７ぐらいは保ったクラスが２クラスできるのがベストじゃないかと。

あと一つ，文教福祉委員会の委員さん方に議論をしてほしいのは，ぜひ教員の働き方の問題。これは，教育は人なりと言われるように人で決まるんです。施策で決まるんじゃなくて，子どもと毎日接している先生の質なんです。数なんです。ですから，委員会の会議でも言ったんですが，教員の勤務時間より子どもが学校にいる時間のほうが長いんです。ここのスタートが無理が来ているところなので，そういうところを具体的に話題にしていただいて，御検討いただいたらよろしいかなと私は思います。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

**○冨田参考人**　私は大学のほうで授業をやっていたもんですから，ちょっと小中のほうはよく分からないんですが，私は４０人でやっていました。厚生労働省のほうの授業が４０人学級だったので。やっぱり４０人はちょっと目いっぱいだったので，できればその半分ですかね。今日の下大野小は少なくて，これは目が届くなというふうには感心いたしましたので，今３５人学級というのが皆様の御努力で実現いたしましたけれども，さらにもう少し少ない方がより子どもと教員が接するというところにはいいかなというふうに思います。

それと，あと文教福祉委員の先生方にお願いしたいというか，やはり教員の働き方というところで，教員の仕事を分解して見てみると，教員じゃなくてもいい部分の仕事もやっていますよね。そこは何か，予算もあると思うんですけれども，何かほかの，学校に支援員のような人を入れてやると，より教育の質が高まるかなと思うんです。これは，私実は２０１７年に茨城県のハーモニーフライトのリーダーでノルウェーに視察に行ったんですけれども，そのノルウェーの学校ではヘルパーという人がいてその雑務をやっていたんです。これはいい制度だなというふうにちょっと思いましたので，ぜひそういう実現に向けて先生方の御尽力を賜りたいと思います。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

**○篠﨑参考人**　私が子どもの頃なんていうのは１クラス４５人ぐらいいて，１人の先生でやっていて，それが今は３０人を目指すということからすると，教育効果という意味では，もちろん少人数学級のほうがいいだろうなというふうには思います。ただ，やっぱりいろんな子がいて，その中でけんかしたり助け合ったり，そういう面ではやはり一定の人数がいたほうがいいんだろうなというふうに思っていて，人数を減らしていくというのは，私自身はもう３０人ぐらいで本当に限度なのかなというふうには思っています。それでいて教育効果も上げつつ，学習効果も上げつつ，それ以外の人間的な教育みたいなものとバランスを取るのはどの辺なのかなということかなと思っています。ですから，１クラスの人数が減れば必ずしもいいかというと，そうでもないのではないかなというふうには思っています。

あと，そのほかですと，どうしても学校とかそういうお話ばかりなんですけれども，文化財とか博物館とか図書館とか，そういったことも教育委員会でもやっていますので，そういったものの活用とか，そういったところにも少し，我々も目を向けないといけませんし，委員の先生方にもそういったところも心に止めていただければというふうに思います。

**○鈴木委員長**　ありがとうございます。

**○丸山参考人**　大体皆さん言い尽くされていただいたかと思います。特に付け加えてということではないんですけれども，日本自体がだんだん少子化になってきていますので，１クラスの人数を減らしていこうという意図的な部分と，現実としてだんだん少なってきているというのがそのうちマッチングしてくるんじゃないかと。教育の場としては，やはり少な過ぎるのもやはり弊害があるというところで皆さんもおっしゃっているので，３５人になって，３０人を目指すというような辺りが恐らく今の時代においてはいいところなんじゃないかなというふうに考えています。

特に皆さん方に要求というのは特にないんですが，先ほど言いましたＩＣＴというのはとても大事で，これからの国の力を左右するような大事な部分だと思うんですけれども，それよりも前に，人間も生き物ですので，やはり自然の中での体験というのが基本の中の基本というところは大事にしていかなきゃいけないのかなというふうに思っていますので，そういった点も含めて，皆様方に今後プランを立てていただければと思います。よろしくお願いします。

**○鈴木委員長**　どうもありがとうございました。

本当に今日は，午後１時半から長時間にわたりまして，このように意見交換会ということで，視察も含めてやらせていただきまして，本当にお忙しい中，今日はありがとうございました。今委員さんのほうからも様々，考えていらっしゃることをお話しいただきまして，本当に私自身もお聞きしていて心に刺さるお言葉もたくさんありました。ぜひ，これから本当に水戸市の児童，生徒のために，先ほど東小川委員さんがおっしゃったように，子どもたちの幸せという，幸せな子が一人でも多くというようなお話がありましたけれども，どこを目指していくのかということで，教員の先生も含めて，やっぱり教員の先生方も子どもたちを教える中でバージョンアップ，また心の部分でもＩＣＴの部分でもバージョンアップしていただきながら，本当に水戸の子どもたちをしっかり育ててもらいたいなと，私たちも決意を改めてさせていただきました。

本当に今日は長時間にわたりましてありがとうございました。また，今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは，以上をもちまして，文教福祉委員会意見を聞く会を閉会させていただきます。

本日は大変に御苦労さまでございました。

午後　５時１８分　散会